

平成 28 年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ
語学・大学留学コース
12 月レポート

今枝沙織

「1 年の締めくくり」

早いもので 2016 年も最後の月となりました。12 月は 1 年の締めくくりであると同時に、秋学期の最後の月でもあります。月の前半は期末試験に追われる学生たちで、勉強モード一色になっていました。

後半は、1 年のうちで最も長いクリスマス休暇です。私はルームメイトの実家にホームステイをしにペンシルバニア州へ、その後、訪れてみたかったニューヨークに観光へ行きました。今回は休暇中に発見したアメリカの文化について報告したいと思います。

<ホームステイ>

アメリカの一般家庭に初めて伺いました。アメリカに住んでいながら、寮と大学の往復を繰り返す生活を送っているため、現地の店に行ったり、手料理を食べたりする機会はほとんどありません。ですから、今回のホームステイをとっても楽しみにしていました。

特に驚いたことはクリスマスツリーです。私がホームステイをしていたランカスター（ペンシルバニア州）では、本物のもみの木をクリスマスツリーに使用することが一般的だそうです。

市内から車を 20 分ほど走らせ、郊外のツリー牧場へ行き、2 メートル以上あるもみの木を購入し、車の屋根に括り付けて持ち帰ります。気に入ったツリーが見つかるまで、3 軒のツリー牧場を回りました。

その後、家族全員でツリーを飾り付けて、てっぺんにエンジェルの飾りを付けました。ツリーの下にプレゼントを置き、クリスマスの朝まで開けるのを待ちます。苦勞して手に入れたツリーと、ツリーの下に増えていくプレゼントを見ることはとても楽しく、子どもの頃のワクワクした気持ちを思い出しました。



ツリーを買いに、もみの木牧場へ



毎日増えていく、クリスマスプレゼント

<ニューヨーク観光>

ニューヨークに1週間ほど滞在し、観光地を巡りました。ここで感じたことは、言葉の多様性です。ニューヨークでは多くの人が英語以外の言語を話していました。

母国の人とは母国語、他国の人とは英語で話すと、当たり前のように言語が切り替えられていました。ここで暮らす多様なバックグラウンドを持った人たちは、母語と英語を何度も切り替えることが生活の一部となっているのだと感じました。

また、アクセントいわゆる“なまり”を聞き取ることに慣れていないと感じました。フィンドレー

では、なまりのある英語を話す人は少なく、私の日本人なまりの英語を一度で理解してもらえないことがあります。しかし、ニューヨークでは、多くの人がなまった英語を話していましたし、それを聞き取るのにも慣れていました。

留学に来る以前は、アメリカに対して多様性の豊かな国というイメージを持っていましたが、今回の旅行を通して、地域によって多様性の度合いに差があることを感じました。



ロックフェラーセンターからの景色